

令和 7 年度島根大学大学院  
教育学研究科入試問題（Ⅱ期）  
《教育実践開発専攻（専門職学位課程）》  
小論文

注 意

- 1 問題紙は、指示があるまで開いてはならない。
- 2 問題紙 1 枚，解答用紙 2 枚，下書き用紙 2 枚である。  
指示があってから確認し，解答用紙と下書き用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。
- 3 解答は，解答用紙に清書すること。
- 4 問題紙は，持ち帰ること。

|      |
|------|
| 受験番号 |
|      |

## 《教育実践開発専攻（専門職学位課程）》 小論文 問題紙

---

中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」（令和3年1月）において「『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの充実に向けた授業改善」を目指すことの重要性が指摘された。

『個別最適な学び』とは、「個に応じた指導」（指導の個別化と学習の個性化）を学習者の視点から整理した概念である。

『協働的な学び』とは、『個別最適な学び』が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動などを通じ、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する学びのことである。

『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に授業で行うためには、どのような授業を構想していく必要があるか、構想の際にはどのようなことに気を付ける必要があるか、あなたの考えを1000字程度で述べなさい。

### 引用・参考文献

- 中央教育審議会答申（2021年1月26日）『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』